
今すぐ実践すべき〇〇

コピー機/複合機の

コスト削減 教科書

見直し時のチェックリスト付き!!

目次

1 コピー機の削減方法

- 1 社員の認知改善
- 2 カラー印刷を減らす
- 3 集約機能/両面印刷を利用
- 4 ミスコピを減らす
- 5 インターネットFAXを利用
- 6 ペーパーレス化/電子化をする
- 7 契約の見直し
- 8 サブスク型に切り替える

2 スリホのご紹介

- 1 スリホとは？
- 2 スリホの特徴
- 3 導入実績
- 4 会社概要



第一章

コピー機のコスト削減方法

1 社員の認知改善

そもそも社員全員が
この認識を持っているのでしょうか？

$$\begin{array}{l} \text{複合機} \\ \text{コスト} \end{array} = \text{本体代} + \text{カウンタ} \\ \text{ー料金}$$


複合機の総コストは基本的に「本体代」と「カウンター料金」を足した金額となります。カウンター料金とはモノクロ1枚辺り〇円、カラー1枚辺り〇円というように、印刷枚数に応じて課金され

る料金のことです。

経営者層の方々は複合機の料金の仕組みについてはある程度理解している場合が多いでしょう。

しかし、一般社員の全員がこの仕組みを理解しているとは限りません。特に、多くの複合機がカウンター料金制であり、一枚単位で料金が発生する従量課金制であることを知らない社員が多い場合があります。

日々の積み重ねで印刷コストが膨大化してしまう複合機。だからこそ、まずは社員全員に一枚一枚にコストがかかっていることを認識させた上で複合機を利用してもらうことがまずは大切です。

なぜトナー購入式ではなくカウンター制なの??

複合機は機械なので故障をしてしまうこともあります。カウンター制では、保守も無償で行ってくれるので新品の複合機を導入する8割の企業がカウンター料金制を選んでいます。

反対に、中古機の場合、故障のリスクが高いため、カウンター料金が高めに設定されるケースが多く、トータルコストを考慮してトナー購入をする会社もあります。



2 カラー印刷の削減

モノクロ単価とカラー単価の違い

前述の通り、多くの複合機がカウンター料金制となっています。では、モノクロ印刷とカラー印刷ではどれほど金額の違いがあるのでしょうか。

単価の相場

モノクロ単価・・・1円

カラー単価・・・10円

※導入地域やその他条件により大きく変動する可能性があります

1枚辺りの単価だけを見るとそこまで大きな差はないように感じるかもしれませんが、この枚数が大きくなればなるほど膨大なコストになってしまいます。

 A社 (モノクロメイン)	 B社 (カラーメイン)
月間総印刷枚数1万枚	月間総印刷枚数1万枚
モノクロ 9,000枚	モノクロ 1,000枚
カラー 1,000枚	カラー 9,000枚
月間コスト 19,000円	月間コスト 91,000円
その差なんと・・・ 約5倍!!	

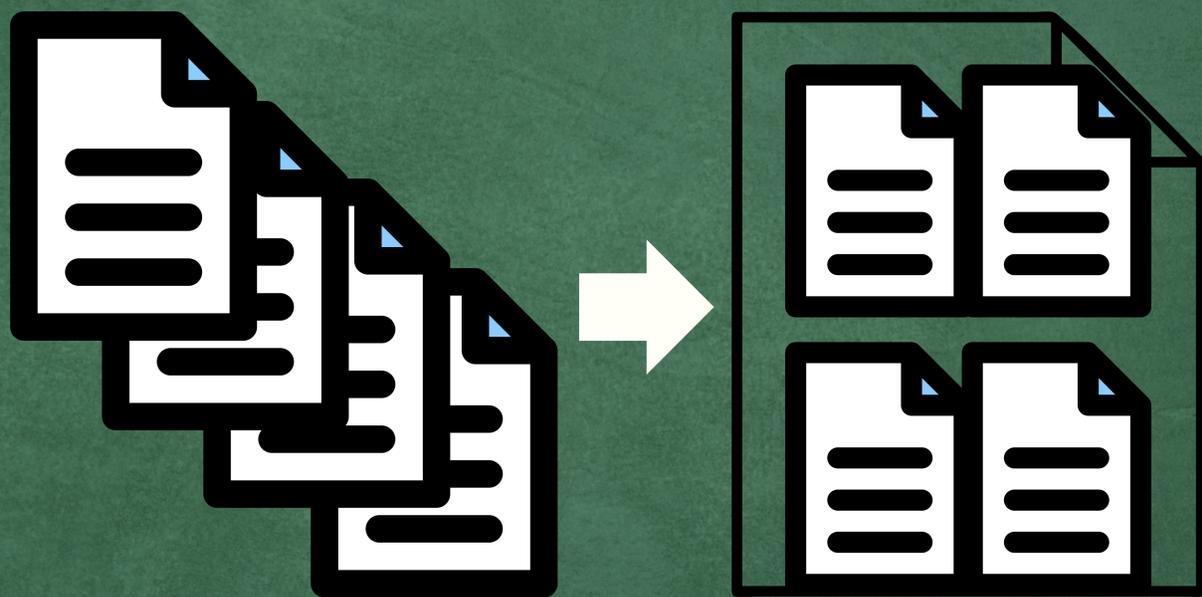
このように、同じ総印刷枚数でもモノクロ印刷が多いのか、カラー印刷が多いのかでランニングコストは大きく変動します。

そのため、社内資料はできるだけモノクロ印刷にするなどの工夫が大切になってきます。

3 集約機能 両面印刷を利用

一石二鳥な集約機能

集約機能



複数ページを1枚に集約

コピー機のコストを削減するには用紙代を節約することも大切になってきます。

そこで用紙代の削減に役立つ機能を紹介しましょう。それが「集約機能」と呼ばれる機能です。これは、「複数ページを1枚の用紙に印刷する機能」です。つまり、通常の印刷方法だと4ページ分になっていた資料を、この機能を使用することで1枚にまとめることができるので用紙代を4分の1に抑えることができます。また、コスト削減だけでなく、集約機能を使用することで、資料によっては複数ページを1枚でまとめて見ることができるので、見やすくなり一石二鳥になります。そこまで見た目を重要視しない社内資料などは集約機能を使用して印刷をするのがおすすめです。

集約機能を活用すべき資料

会議資料
社員教育・研修資料
業務マニュアルや手順書
レポート・報告書



4 ミスプリントを未然に防ぐ

ミスプリントでいくら経費を無駄にしているか把握していますか？

実は、オフィスにおいてミスプリントは意外と多いものです。しかも、ミスプリントの枚数は可視化できないため、実際のところどれくらい無駄になってしまっているかわかりません。そして、ミスプリントはコスト的な無駄だけではなく、業務の手間が増えてしまいかねません。

とはいえ、ミスプリントを減らすために意識的にミスがなくすように伝えてもなかなか減らすのが難しいでしょう。

そこで、ミスプリントを防ぐために役立つ機能をご紹介します。



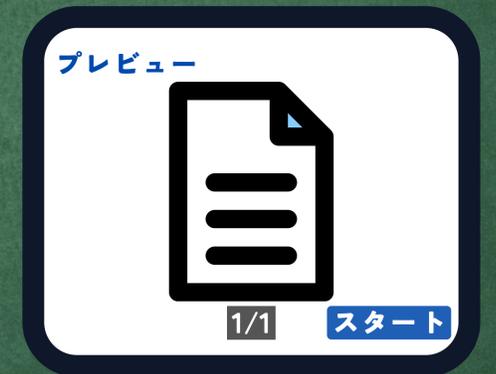
印刷ミスを防ぐ方法4選

①印刷プレビューの活用

②オンデマンド印刷

③留め置き印刷

④試しコピー印刷



①印刷プレビューの活用

印刷する前にレイアウトやページ数、フォント、や印刷サイズの確認などを行うことができます。

②オンデマンド印刷

これはパソコンからデータをプリンタに直接送る印刷方式のことです。

③留め置き印刷

これはPCから送られたデータがすぐに出力されず、一度複合機のHDDに留め置かれる機能です。

④試しコピー印刷

複数部印刷する前に、試しに1部だけコピーして仕上がりを確認できる機能です。

5 ペーパーレス FAXにする

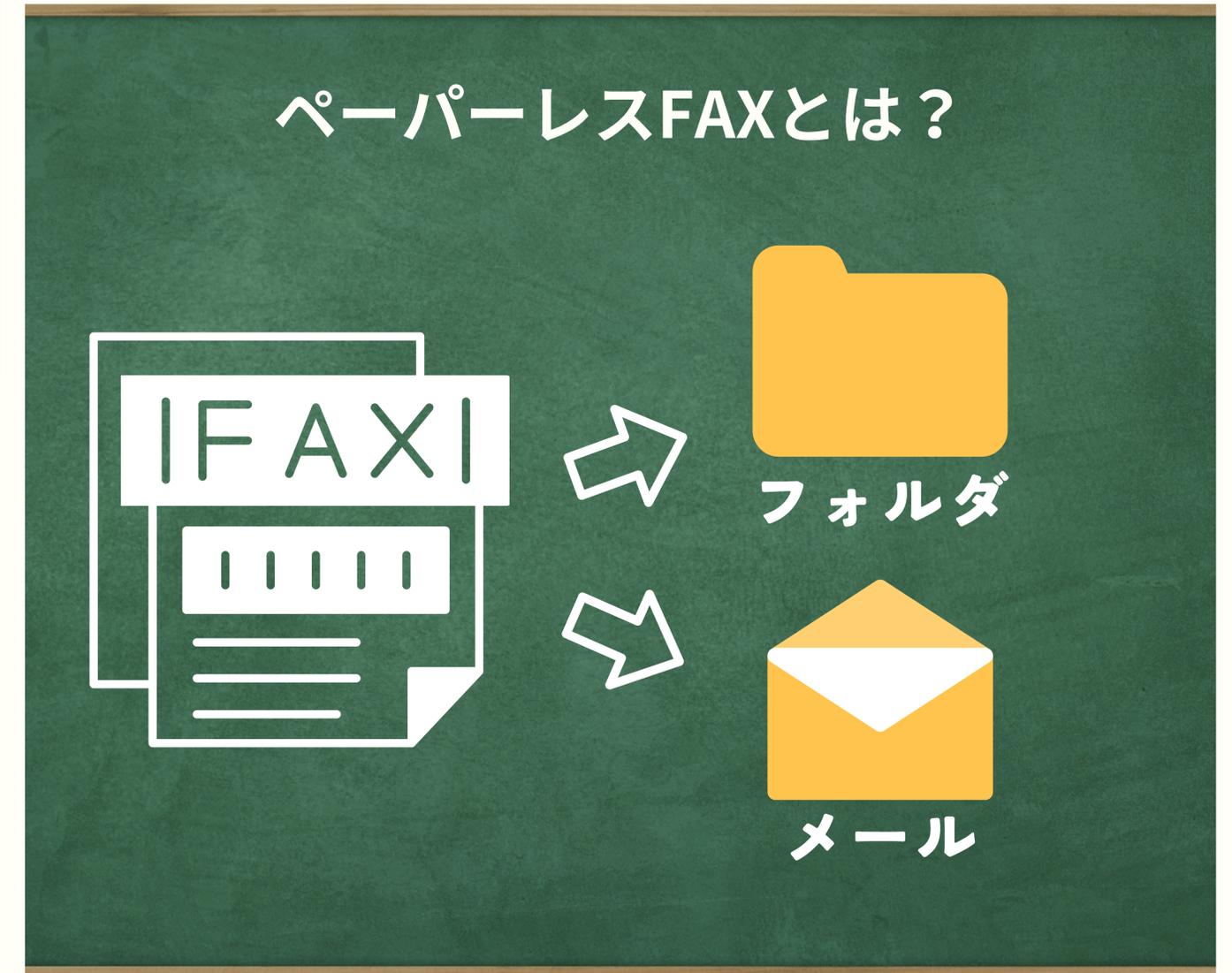
FAXはPC上で
見れるようにできます

デジタル化が進む現在でもFAXの利用は一定となっています。特に、官公庁や大手企業ではFAX利用は根強く残っており、実際に契約書関係の書類や取引先がFAXのみ対応している場合は発注書などをFAXで送付することが多いのが現状です。

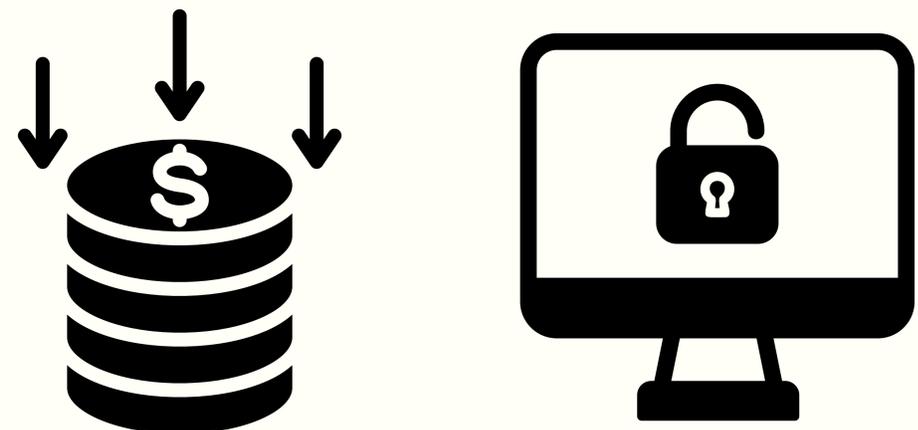
また、営業FAXなども多く届き余分に印刷コストがかさんでしまうケースも珍しくありません。

そこで役に立つ機能があります。それが「ペーパーレスFAX」です。これは「ファクス受信した文書を用紙にプリントすることなく、ボックスに保存できる機能」のことをいいます。

そのため、まずはFAXの受信をコピー機から出力する方法ではなく、PCのフォルダやメールに届くように設定するとよいでしょう。



また、用紙にプリントしないため、資源を節約し、**情報漏洩の危険を減らすことができる**という利点もあります。



6 ペーパーレス化 電子化する

それって本当に
印刷する必要がありますか？

前述した「ペーパーレスFAX」も電子化をする方法のひとつです。

そこで、ペーパーレスFAX以外に印刷を電子化する方法をご紹介します。

電子化する方法3選

①電子署名サービスの導入

②スキャンとOCR技術の活用

③タブレットの導入

①電子署名サービスの導入

書面で行われていた契約業務などがペーパーレス化され、紙代や印刷・設備コスト、郵送コストなどを削減することが可能です。

また、紙文書の保管スペースが不要になり、管理にかかる人的リソースも軽減することができます。



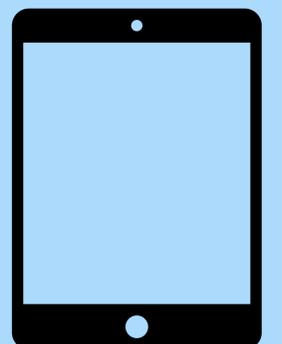
②スキャンとOCR技術の活用

スキャナーを利用して紙の書類を電子化します。そして、スキャナーで読み取った紙文書は、電子化して保存されますが、OCRを使えばその電子化したデータから文字情報を抽出しテキストデータなどの形で保存できます。



③タブレットの導入

タブレットの導入は印刷物の削減だけでなく、時間や場所に縛られることなく、外出先でも資料を閲覧でき、そして必要な情報をすぐに探し出すことが可能となるため利便性の向上にもつながります。



7 契約の見直しを行う

自社の複合機、 適正な価格で利用できていますか？

これまで様々なコストの削減方法をご紹介しておりましたが、やはり削減効果が高いのがコピー機のリース契約見直しです。

実際の利用現場では必要としない高機能で高価な複合機を導入していたり、リース料金に見合わない性能の低い複合機が導入されていたりするケースがあります。また、大型複合機だけでなく、卓上の家庭用プリンターでも同じことが起きています。本体は比較的安価に購入できますが、インク代が高く、印刷単価は圧倒的に高く設定されています。

そのため、まずは複数の会社に複合機の見積もりを作成してもらい現状のコストと比較することがおすすです。

契約見直しのチェックリスト

大型複合機を利用中の場合

- リース料金の把握
- カウント単価/料金の把握
- 月間印刷枚数の把握
- 必要な機能の把握
- 直近3ヶ月の明細を用意



卓上プリンターを利用中の場合

- 毎月のインク代の把握
- 月間の印刷印刷の把握



8 サブスクサービスを導入する

印刷はサブスクの時代！ コストを気にしない手段も

印刷コストを削減する方法として、「サブスク型」のプリンターに切り替えることもひとつの手です。サブスク型なので何枚刷っても一定額で済み、**印刷枚数が多い企業ほどサブスク型がオススメです。**

サブスクがオススメな企業

- 印刷枚数が多い（特にカラー）
- 印刷を我慢している
- 印刷コストを一定額にしたい
- できるだけコンパクトが良い

スリホは
「フルカラー」を「**刷り放題**」できる
サブスク型プリンターサービスです

業界初!
定額制刷り放題

フルカラー
印刷し放題

何枚刷っても
定額料金

面倒な審査は
一切なし



大型複合機でカラー印刷をすると**カラー単価が高い**ために、**カウント料金がかさみ膨大なコスト**になりかねません。そこで、お客様の中には「スリホ」と大型複合機を併用する形で導入するケースも多くあります。

サブスク型プリンターの導入は単にコスト削減になるだけでなく、**コストに気にせず印刷ができる**ため**ストレスフリーな営業活動ができる**というメリットもあります。

第二章

定額制プリンター スリホのご紹介

01 スリホとは

スリホは
「フルカラー」を「**刷り放題**」できる
サブスク型プリンターサービスです

業界初!
定額制刷り放題

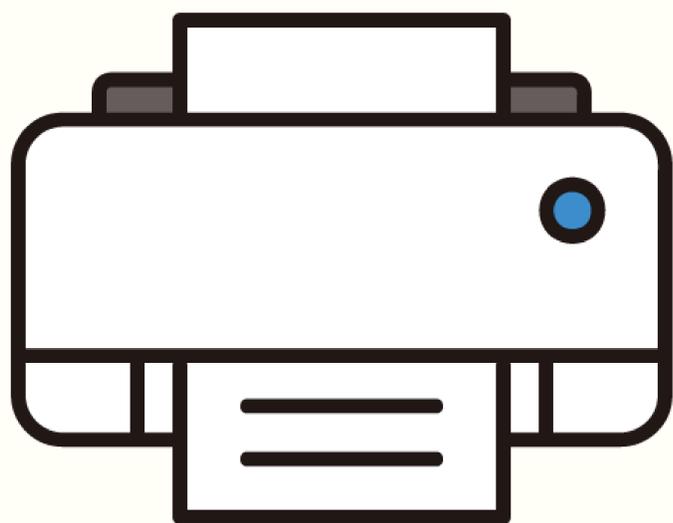
何枚刷っても
定額料金



フルカラー
印刷し放題

面倒な審査は
一切なし

02 スリホの特徴



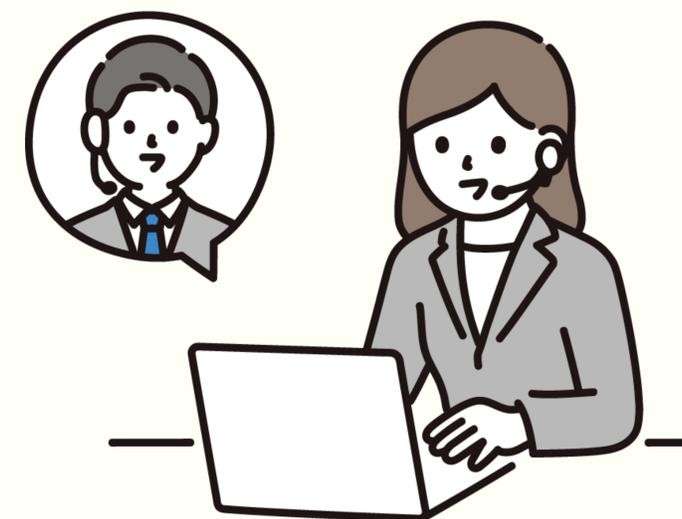
ビジネス 専用機

スリホはビジネス専用機だから印刷スピードが早く、インクも大容量。
プランも充実しているのでお客様のご要望にあったプランをご提案可能です。



管理が楽に

定額制だから枚数の管理も不要！
インクも約1万枚印刷できるほど大容量なので、インク交換の手間を大幅削減することができます。



安心のカスタマ ーサポート付き

設定や印刷方法でご不明点があった場合や機械の不具合時はカスタマーサポートが迅速かつ的確な指示でお客様のお悩みを解決。
ご訪問にて機械のトラブルを解決することも可能です。

※お伺いできない地域もございます

第二章 定額制プリンタースリホのご紹介

03 導入実績

累計導入台数6,500台以上！

あらゆる業界の大手企業から中小企業まで、幅広い導入実績があります。

<p>官公庁</p>  <p>市役所</p>	<p>サービス</p> 	<p>金融・保険</p> 		
<p>旅行</p> 	<p>IT・通信</p>  <p>その他</p> 	<p>ショップ</p> 	<p>人材・教育</p> 	<p>製造・販売</p> 
<p>不動産</p> 				

04 会社概要

基本情報

社名	株式会社C-mind（シーマインド）
所在地	〒169-0072 東京都新宿区大久保2-5-23 新宿辻ビル10階（受付5階）
設立	2011年3月
資本金	30,000,000円
代表者	代表取締役CEO 虎石 克 代表取締役COO 近藤 光
人数	268名（グループ合計）
事業内容	コスト改善・業務DXサービスの提供 複合人材サービスの提供

Purpose

『世の中を、フラットに。』

社会の格差や不平等を無くし、誰もが挑戦したくなる世の中を作る

Service

スリホ®

業界シェアNo.1の
定額制レンタルプリンターサービス

Xガンスリホ

業界初
全国メーカーメンテナンスの
定額制大型複合機

Flat Series

ビジネスインフラを
「必要な分だけ」使えるサブスクサービス

DIGITALSIGN

日本初！
当人認証可能な電子契約プラットフォーム

ミナオシ

[利用環境] も [お取引先] も変えない
80品目の経費改善サービス